

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名	九州農政局
-----	-------

都道府県名	鹿児島県	関係市町村名	かの や し かの や し 鹿屋市（旧鹿屋市）
事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	いいくま 飯隈
事業主体名	鹿児島県	事業完了年度	平成23年度

〔事業内容〕

事業目的： 本地区は、鹿児島県大隅地方の鹿屋市南部に位置し、一級河川肝属川水系の支流大始良川沿いに広がる農業地帯であり、水稻（早期米）を中心に水田の畑利用による露地野菜、飼料作物等を組み合わせた営農が展開されている。

しかし、地区内のほ場は狭小かつ不整形であり、また農道幅員は狭く、用排水路も土水路のため、営農に支障が生じ農業経営は不安定な状況にあった。

このため、本事業によりほ場の大区画化と農道、用排水路の整備を行い、農業生産性の向上を図るとともに担い手への農地集積を促進し、地域の農業構造の改善等に資する。

受益面積：45ha

受益者数：274人

主要工事：区画整理45ha、農道7.1km、用水路10.7km、排水路7.2km

総事業費：1,231百万円

工 期：平成14年度～平成23年度（計画変更：平成18年度）

関連事業：なし

〔項 目〕

1 社会経済情勢の変化

（1）社会情勢の変化

本地域の総人口について、平成12年と平成27年を比較すると3%減少したものの、県全体の減少率8%を下回っている。

【人口、世帯数】

区分	平成12年	平成27年	増減率
総人口	106,462人	103,608人	△3%
総世帯数	42,992戸	44,911戸	4%

（出典：国勢調査）

産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成12年の15%から平成27年の12%に減少したものの、平成27年の県全体の割合9%に比べて高い状況となっている。

【産業別就業人口】

区分	平成12年		平成27年	
		割合		割合
第1次産業	7,371人	15%	5,330人	12%
第2次産業	11,237人	23%	8,444人	18%
第3次産業	31,043人	62%	31,581人	70%

（出典：国勢調査）

（2）地域農業の動向

平成12年と平成27年を比較すると、耕地面積については7%、農家戸数は39%、農業就業人口は52%減少しており、65歳以上の農業就業人口についても33%減少している。

一方、農家1戸当たりの経営面積は53%、認定農業者数は30%増加している。

区分	平成12年	平成27年	増減率
耕地面積	11,017ha	10,240ha	△7%
農家戸数	6,760戸	4,115戸	△39%
農業就業人口	10,670人	5,096人	△52%
うち65歳以上	4,185人	2,795人	△33%
戸当たり経営面積	1.63ha/戸	2.49ha/戸	53%
認定農業者数	501人	649人	30%

(出典：農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は鹿児島県調べ)

2 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された用水路は西俣土地改良区により、適切に管理されている。

また、排水路や農道は、多面的機能支払交付金を活用し、非農家を含む地域住民が一体となって草刈りや土砂上げ等の日常管理を行っている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

計画では、水稻を中心とし、ブロッコリー、だいこん、にんじん等の作付拡大を予定していたものの、大区画化されたほ場における土地利用型作物の効率的な営農や経営所得安定対策により主食用米並の所得の確保が可能となったことから、えん麦等の飼料用作物の作付面積が増えるとともに、新たにWCSが導入されている。

【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成13年)	計画	
水稻	37.7	29.0	37.0
ソルゴー	0.8	6.7	1.4
えん麦	1.5	7.7	14.8
そば	1.5	3.9	—
ブロッコリー	0.2	1.6	—
だいこん	0.3	2.7	—
にんじん	0.4	3.1	—
イタリアンライグラス	9.0	15.1	11.7
WCS	—	—	2.8

(出典：事業計画書(最終計画)、鹿屋市聞き取り)

【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成13年)	計画	
水稻	164.0	128.8	176.1
ソルゴー	60.9	587.0	115.5
えん麦	84.4	498.3	1,220.7
そば	1.9	5.7	—
ブロッコリー	2.2	20.6	—
だいこん	14.8	153.6	—
にんじん	16.5	147.0	—
イタリアンライグラス	417.1	1,325.6	817.4
WCS	—	—	140.0

(出典：事業計画書(最終計画)、鹿屋市聞き取り)

【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 （平成28年）
	現況 （平成13年）	計画	
水稻	39.0	30.6	89.1
ソルゴー	1.2	11.7	4.3
えん麦	1.5	9.0	43.9
そば	0.4	1.3	—
ブロッコリー	0.4	3.7	—
だいこん	0.7	7.2	—
にんじん	1.0	8.7	—
イタリアライグラス	8.3	26.5	27.8
WCS	—	—	6.4

(出典：事業計画書(最終計画)、鹿屋市聞き取り)

(2) 営農経費の節減

本事業の実施によるほ場の大区画化や農道の整備等により、大型農業機械の導入による効率的な営農が可能となり、労働時間及び機械経費が節減されている。

【労働時間】

(単位：hr/ha)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 （平成28年）
	現況 （平成13年）	計画	
水稻	750	144	144
ソルゴー	220	38	38
えん麦	220	38	38
イタリアライグラス	260	44	44

(出典：事業計画書(最終計画)、鹿屋市聞き取り)

【機械経費】

(単位：千円/ha)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 （平成28年）
	現況 （平成13年）	計画	
水稻	334	170	151
ソルゴー	237	87	93
えん麦	237	87	93
イタリアライグラス	572	132	129

(出典：事業計画書(最終計画)、鹿屋市聞き取り)

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上

本事業の実施による区画整理や農業用水の安定供給により、水稻やえん麦の単収が増加するなど、農業生産性の向上が図られている。

また、飼料作物の生産拡大は、畜産農家への安定的な粗飼料の供給を可能としており、地域の畜産振興にも寄与している。

【単収】

(単位：kg/10a)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 （平成28年）
	現況 （平成13年）	計画	
水稻	435	444	476
ソルゴー	7,618	8,761	8,248
えん麦	5,628	6,472	8,248

イタリアライグラス	7,634	8,779	6,986
-----------	-------	-------	-------

(出典：事業計画書(最終計画)、鹿屋市聞き取り)

(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

① 担い手の体質強化

本事業による農業生産基盤の整備に伴い、担い手への農地集積が進んでおり、集積面積及び集積率とも計画どおりとなっている。

【担い手の育成状況】

(単位：人)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成13年)	計画	
認定農業者	1	1	1

(出典：鹿屋市聞き取り)

【担い手への農地集積】

(単位：ha、%)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成13年)	計画	
農地集積面積	2.1	15.8	15.8
農地集積率	0.8	35.3	35.3

(出典：鹿屋市聞き取り)

(3) 事業による波及効果等

① 耕畜連携の取組

地区内では、事業実施を契機に畜産農家との耕畜連携の取組が促進され、耕種農家においては飼料供給のためWCS等の生産に取り組んでおり、畜産農家から得られる堆肥等の施肥により、農地の地力維持を図っている。

② 地域の活性化に向けた取組

本事業で整備されたほ場では、昨年度から、西俣盛り上げ隊壮青年部（一般住民含む）が地域住民間の交流や地域の活性化を目的に「泥リンピック in 西俣」を開催している。イベントには、地域外からも含め約100人の参加者があり、地域住民間の交流の促進のみならず、都市住民との交流も図られ、地域の活性化に寄与している。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

妥当投資額 1,347百万円

総事業費 1,338百万円

投資効率 1.00

(注) 投資効率方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

整備された農道は、ほ場への効率的な通作を可能とするとともに、地域の生活道路としても活用され、地域住民の利便性の向上に寄与している。

(2) 自然環境

本地区は、鹿屋市の田園環境整備マスタープランに基づき、工事の実施の際に汚濁水の排出防止や低騒音・低振動・低排出ガスの重機を使用するなど、周辺環境の負荷の軽減に努めた。

また、事業完了後も西俣地区環境保全会による排水路や農道の草刈り等のほか、地域の小学校と連携したれんげの植栽等の農地水保全活動を行っており、施設周辺の景観が維持さ

れている。

6 今後の課題等

事業によりほ場が大区画化され、作業の効率化や農地集積が進んでいるものの、排水不良を抱える一部のほ場がある。今後は畑作物の生産振興の際には、排水対策等のハード整備の検討が必要である。

事後評価結果

本事業の実施により、水稻やえん麦の単収が増加するなど、農業生産性の向上が図られているとともに、えん麦等の飼料作物の生産拡大やWCSの導入は、畜産農家への安定的な粗飼料の供給を可能としており、地域の畜産振興にも寄与している。

また、担い手への農地集積が促進され、ほ場の大区画化により大型農業機械の導入が可能となり、農作業に係る労働時間等が節減されている。

さらに、本事業で整備されたほ場では、地域外からも含め約100人が参加する「泥リンピック in 西俣」が開催されており、地域住民間のみならず、都市住民との交流も促進し、地域の活性化が図られている。

今後、排水不良を抱える一部のほ場では、畑作物の生産振興に際し、排水対策等のハード整備の検討が必要である。

第三者の意見

本事業の実施により、農業生産性の向上が図られていること、飼料作物の生産拡大に伴い耕畜連携が図られ地元の畜産振興に寄与していること、都市住民との交流の促進など、評価できる。

一方、担い手や後継者の確保など今後さらなる取組に期待したい。

また、将来、栽培作物が多様化する際には排水対策等の検討が望まれる。このほか今後とも発現している効果を維持向上させるため、整備した施設等の適切な維持管理が望まれる。

経営体育成基盤整備事業 飯隈地区 概要図

